マイクロフォン―雑感―

「新青年」一九二五年一二月

国枝史郎

青空文庫

「新青年」はすべからく「探偵小説新青年」と斯う改題する必要がある。

×

川田功氏の「砲弾を潜りて」は、日本のあらゆる戦争文学の中、第一位に置かる可き名作であった。「尼港の怪婦人」に至っては、遺憾ながら稍落ちる。

×

小酒井不木氏は「手術」を書いて、素人の域から飛躍した。しかし「遺伝」に至っては、学者の余技たる欠点を、露骨に現わしたものである。「犯罪文学研究」は、西洋物ほどには精彩がない。

×

近代文学とは如何なるものか？　反逆性ある文学である。日本の探偵小説家に、反骨の無いのはウンザリものである。

×

トリック、トリック！　解剖、解剖！　これだけでは近代の探偵小説とは云えない。

×

所謂刑事上の罪人なるものを、真の罪人と思い込んでいるのが、探偵小説家の悪い癖である。

×

ウェルシーニンの「死の爆弾」を、喝采謳歌しないような、探偵小説家はヤクザである。さすがに前田河広一郎氏は、ウェルシーニンを認めていた。

×

内容を変えることが出来なかったら、せめて型でも破ってくれ。日本の探偵小説家よ。

×

活動写真の筋書のような、「近頃読んだもの」は無くもがなである。

×

モーリス・ルブランはお喋舌りに過ぎ、ビーストンは高踏的、チエスタートンは固い道化で、ドイルは既に古くなった。

×

手淫芸術、幇間芸術、日本の探偵小説家は、その製造に忙しそうだ。

×

純芸術と称せられるもの、大方無気力の書斎芸術である。本当の巷芸術は、謂う所の大衆文芸である。そうして探偵小説は大衆文芸の一分派である。

×

大衆文芸の大衆の意義は？　大は大勢の大であり、衆は民衆の衆である。そうして民衆とは第四階級の謂だ。果然大衆文芸とは大勢の第四階級の文芸ということになる。だが日本の探偵小説家で、ここ迄考えているものが果して幾人あるだろう？

青空文庫情報

底本：「国枝史郎探偵小説全集　全一巻」作品社
　　2005（平成17）年9月15日第1刷発行
底本の親本：「新青年」
　　1925（大正14）年12月
初出：「新青年」
　　1925（大正14）年12月
入力：門田裕志
校正：Juki
2014年4月10日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

マイクロフォン―雑感―

「新青年」一九二五年一二月

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　国枝史郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/